

REPORT

パントリー活動引き取りサポート試行実施PJ 報告書



2025年3月 | 全国子ども食堂支援センター・むすびえ

目次

はじめに	①
01.プロジェクト立ち上げの背景	②
02.プロジェクトの概要	③
03.報告会紹介※ ¹	④
04.1年間の試行実施の末、見えてきたこと※ ²	⑤

※1(回ごとに紹介し、回を重ねるごとの変更も文章化、各協力こども食堂さんのコメントも資料から引用)

※2(オイシックスさん、フードバンク八王子さんのコメント含む)

はじめに

コロナ禍が始まった当時、私も一人のこども食堂運営者として、「この場をどのような形で維持できるだろうか?」と模索し続けていました。

こういったことの一つひとつが、落ち着きを取り戻しつつある中でも各地域で影響として残っているということが分かり、まずは試行実験的に今回の取り組みが始まりました。

想いを持って活動するわたしたちは「ある特定の悩みを解決したらそれで全てうまくいく」というそんな単純な道を歩んでいるのではなく、おそらく今後も多様なかたちでの苦労や困難に直面することがあると思います。抗いようのない危機がまたしても訪れるかもしれません。そういった複雑な状況下でも、実現したい未来を描き、目の前の景色を明るくする活動を続けていくことそれ自体が、わたしたちの一步一步をよりパワフルなものにしてくれるのではないかと信じています。

このプロジェクトでは、東京都八王子市内の5団体を対象に、パントリー活動の負担を一部軽減できるような工夫を行うとともに、「パントリー活動を続けるか続けないか」という葛藤の奥底にある「わたしたちが本当にやりたいことは何なのか?」という問いに向き合いました。その試行錯誤の過程を記録として残しつつ、ワークショップ形式で実施した報告会の仕様を紹介します。

あたたかな想いをもって活動するみなさんが、時に立ち止まりながらも、また次の力強い一歩を踏み出す。そのための小さな支えとして少しでも役に立てれば嬉しいです。

プロジェクトリーダー 小島寛太

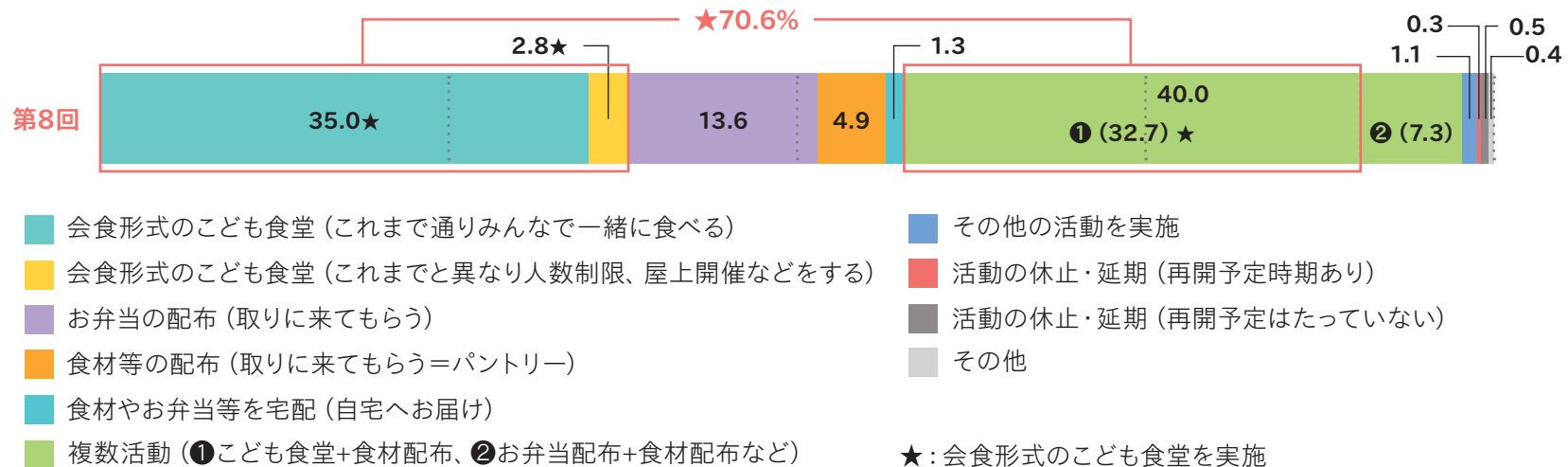
01 プロジェクト立ち上げの背景

..... パントリー活動「消極的継続派」のこども食堂

第8回「こども食堂の現状&困りごとアンケート」より

3 こども食堂開催状況

回答数:724件 単位:%



こども食堂はコロナ禍であっても、弁当・食料配布(パントリー活動)を含む様々な活動を通して「何らかの形で地域の人々とつながり続ける」という姿をこども食堂の参加者及び社会に示してきました。

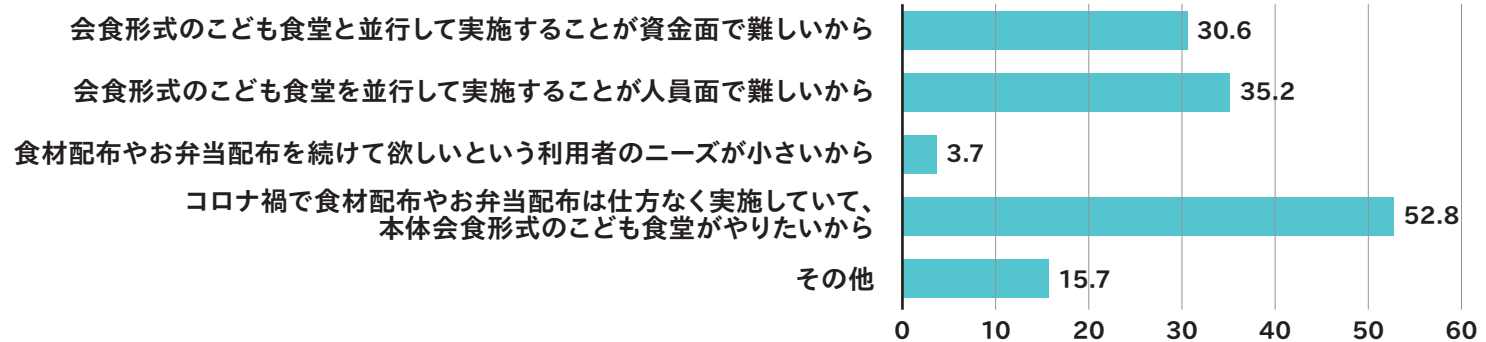
2023年にはコロナ禍が収束に向かい、その年の調査では、こども食堂の7割以上が会食形式での活動を行っていると回答していました。

..... パントリー活動「消極的継続派」のこども食堂

第8回「こども食堂の現状&困りごとアンケート」より

7 -3 食材配布実施に消極的な理由

回答数:108件 単位:%



一方で、「会食形式に切り替え、従来通りのこども食堂の活動を通した居場所づくり等を行いたいが、パントリー活動を継続せざるを得ない」というこども食堂も一定数存在します。

=「消極的継続派」のこども食堂が存在しているということです。

パントリー活動「消極的継続派」のこども食堂運営者は、物価高騰の影響などにより生活が苦しい参加者の実情に触れ、何とか支援を続けたいという気持ちと、自身の望む地域との関わり方とのずれによる葛藤を抱えていました(参考:オンラインイベント記事)。

ゴール設定

「消極的継続派」がパントリー活動をいかに手放すか検討することができるor手放せている他の地域の、同じ悩みをもった人・取り組みに参考にしてもらう。

有効な取り組み・試行錯誤の仮説

- パントリーの活動の負担軽減
- 活動をする上での大切にしたいことの確認
- 活動を通して実現したいことの確認
- 活動をする上での大切にしたいことの確認
- 活動を通して実現したいことの確認

背景の整理

資金面、人員面での負担
→疲弊感

パントリー用の食材を集め、
仕分けるなどに対する資金面・
人員面での負担が大きい

利用者のニーズに直面
→混乱？

各家庭が抱えるさまざまな事情に
触れ、利用者としてのニーズの
大きさを実感

関係性の変化への不安

運営形態を変更した時に、
「気になるあの人」が来なくなる
可能性がある。

02 プロジェクトの概要

プロジェクトの概要

1年間の試行実施(2023年11月から2024年11月まで)

We Support Family

- オイシックス・ラ・大地
- ココネット

フードバンク八王子

八王子市内の5拠点
320世帯

むすびえ

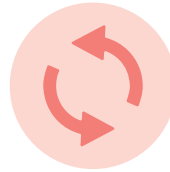
フードパントリー活動の 負担を一部サポート

それぞれの拠点に月1で
食材を配送
→食材調達の手間軽減



自らが望む 地域との関わりを 再検討

仲間との議論や思いの共有
参加者への説明
運営形態の切り替えなど



その過程における 試行錯誤を 共有・報告

3ヶ月に1度程度
オンラインでの報告会
他地域の方々や関係者とともに



参画企業・団体・子ども食堂

子ども食堂

- はちおうじ子ども食堂(東町)
- すまいるカフェ(散田町)
- 子ども食堂「にこにこ」(片倉町)
- すずらん食堂(中野山王)
- さくら子ども食堂(元八王子町)

企業・団体

- We Support Family
(オイシックス・ラ・大地、ココネット)
- フードバンク八王子

事務局

- 認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ

実施スケジュール

以下のスケジュールと内容プロジェクトを実施しました



2023年11月、12月

配送スタート(月1回で1年間)

2024年2月

第1回報告会

2024年5月

第2回報告会(コロナ5類以降後1年経過のタイミング)

2024年9月

第3回報告会

2024年11月

配送終了・最終報告会

取り組み概要



フードパントリー活動の負担を一部サポート

We Support Familyの協力により、それぞれの拠点に月1回食材を配送し、食材調達等の負担軽減を図りました。

自らが望む地域との関わりを再検討、その過程における試行錯誤を共有・報告

仲間との議論や思いの共有することで、運営者自身の大事にしたいことに向き合いました。運営形態の切り替えなど試行錯誤の過程を報告会にて、他地域の方々や関係者にも共有。コロナ禍を経験したからこそ、状況に応じてできることに向き合いながら地域と関わる活動を今後も続けていくという“未来”を考える取り組みとなりました。



03 報告会紹介

報告会実施について

【キックオフミーティング】

2023年11月21日(火)10:00~11:30

1年後の目指したい姿を描き、
それを実現するために必要な取り組みについて対話を実施

FAQ

Q 1年後の未来、どうなっていたいですか？

その未来をパワフルに実現させていくために必要とされる工夫や取り組みはなんですか？

はちおうじこども食堂

A 大学生中心に運営している中での、今の課題を解決し、より地域に受け入れられる食堂に。公式LINEから、多くの方と繋がりたい。

さくらこども食堂

A 「あそこにいけば笑顔になれる」というような場所にしたい。食材配布・食事と遊びでコミュニケーションをとって、がんばっていきたい。

こども食堂にここにこ

A 地域の中で愛される食堂になりたい。どういう形かは今後考えていきたい。

すずらん食堂

A 食材配布・食事会のそれぞれの活動を充実させていきたい。

すまいるカフェ

A 「どれだけ楽しんで帰ってもらえるか」を大切に、食事と遊びメニューを充実させたい。

報告会実施について

【第1回報告会】

2024年2月28日(水) 10:00~12:00

対面で集まり、それぞれの取り組みを振り返り共有し、
今後に向けたさらなる試行錯誤を模索

進行上の次第

- チェックイン
- 本PJの概要確認・仮説点検
- フードバンク八王子からコメント
- ここまでの振り返り
- 今後に向けた意見交換
- 今後のスケジュールの確認・クロージング



第1回報告会 実施内容

振り返りワーク

以下4つについて、こども食堂運営者それぞれが記入し振り返りを実施しました。

●A4用紙を四つ折り

1 PJ終了後の理想の状態	2 ここまでで取り組んだこと
3 A...取り組んだことの振り返り B...食材配送と、この場の貢献度	4 A...①に近づくには 何をどうすれば良いか B...どんなサポートだとより良いか

報告会実施について

【第2回報告会】

2024年5月29日(水) 18:00~19:30

座談会形式としてオンライン配信をし、
全国のこども食堂運営者に対する共有と意見交換を実施

進行上の次第

- むすびえ理事長 湯浅よりメッセージ
- プロジェクト参画団体からの事例紹介、トークセッション
- ブレイクアウトルームでの交流・意見交換タイム
- 感想共有・まとめ

参加者のコメント(アンケートから一部抜粋)

「他の団体も、悩んでいることとか同じだったり、
あっ、そうやって開催もありなんだとか、いろいろ勉強になりました。」

「様々な考え方ややり方があり、みなさん、いろんな工夫や試行錯誤を
されながら、どれも正解であって、正解じゃない！みたいな感じがありました。
やり方や想いが違うから、いっぱいあって良いんだと思います。
本当に自分だけじゃないという思いになり、元気になりました。」

パントリー...会食...

「みんなどうしてる？」

オンライン座談会 vol.3 開催のお知らせ

5月29日(水) 18:00~19:30

@オンライン (Zoom)



報告会実施について

【第3回報告会】

2024年9月25日(水) 10:00~12:00

対面で集まり、八王子市内の他のこども食堂3箇所も参加し、
これまでの振り返りつつ多様な意見を受け止め、今後についての意見交換を実施

進行上の次第

- チェックイン
- 本PJの概要確認・仮説点検
- フードバンク八王子からコメント
- 個人ワーク、グループでシェア・トーク
- 全体シェア・振り返り
- クロージング



第3回報告会 実施内容

個人ワーク

以下4つについて、こども食堂の運営者が自らに改めて問い直しながら整理しました。

●A4用紙を四つ折り

1
こども食堂で
変えていきたいこと

2
こども食堂で
変えたくない(続けたい)こと

3
こども食堂でどうしたら
良いか迷っていること

4
この場のメンバーに
聞いてみたいこと

報告会実施について

【第4回報告会】

2024年11月6日(水) 10:00～12:00

対面で集まり、プロジェクト終了後の目指す姿を検討し、
今後の課題を見出すワークを実施

進行上の次第

- チェックイン
- 本PJの概要確認・仮説点検
- 個人ワーク、グループでシェア・トーク
- 全体シェア・振り返り
- フードバンク八王子からのコメント
- クロージング



最終報告会 実施内容

STEP1

以下4つについて少し心静かに自らに問いかけ白紙の左上をメモに使用

この1年の試行錯誤の中で…

- ① よかったこと・気づいたことは？
- ② 意図的に変化させたこと・工夫したことはなんですか？
- ③ 印象に残った誰かの言動や反応は？
- ④ 想定外だった結果や効果があったら、それはなんですか？

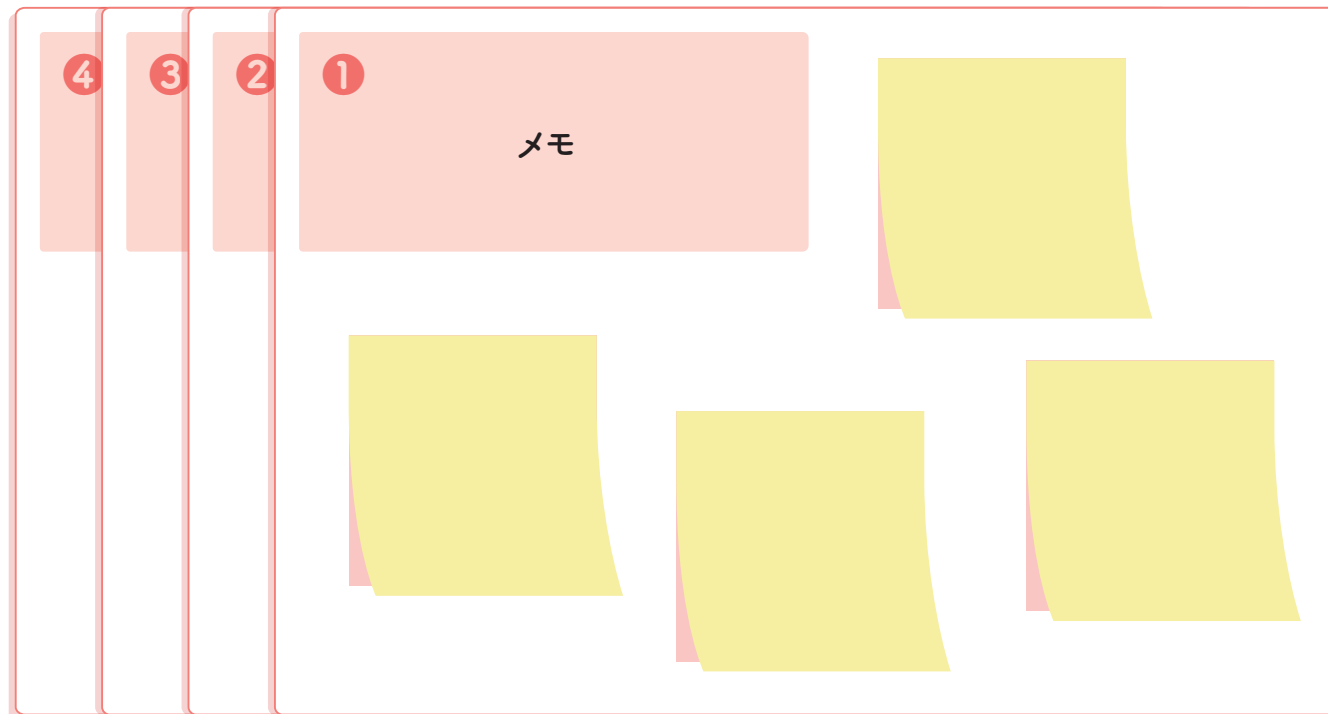
④	③	②	① メモ
---	---	---	---------

最終報告会 実施内容

STEP2

4つの問いを通して振り返ったことを全体共有

他の人の共有を聞いて、気になった/響いたキーワードがあれば、付箋に書いて貼っておく

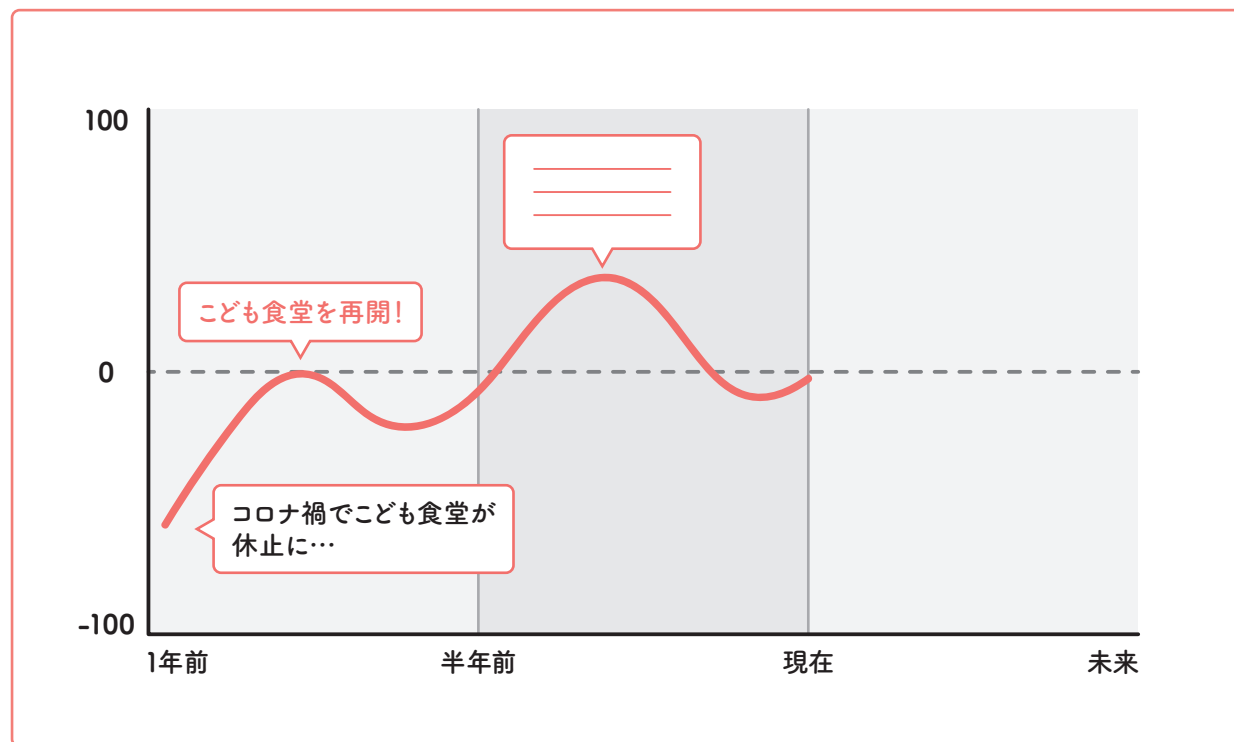


最終報告会 実施内容

STEP3-①

これまでの活動を振り返って「モチベーショングラフ」を作成

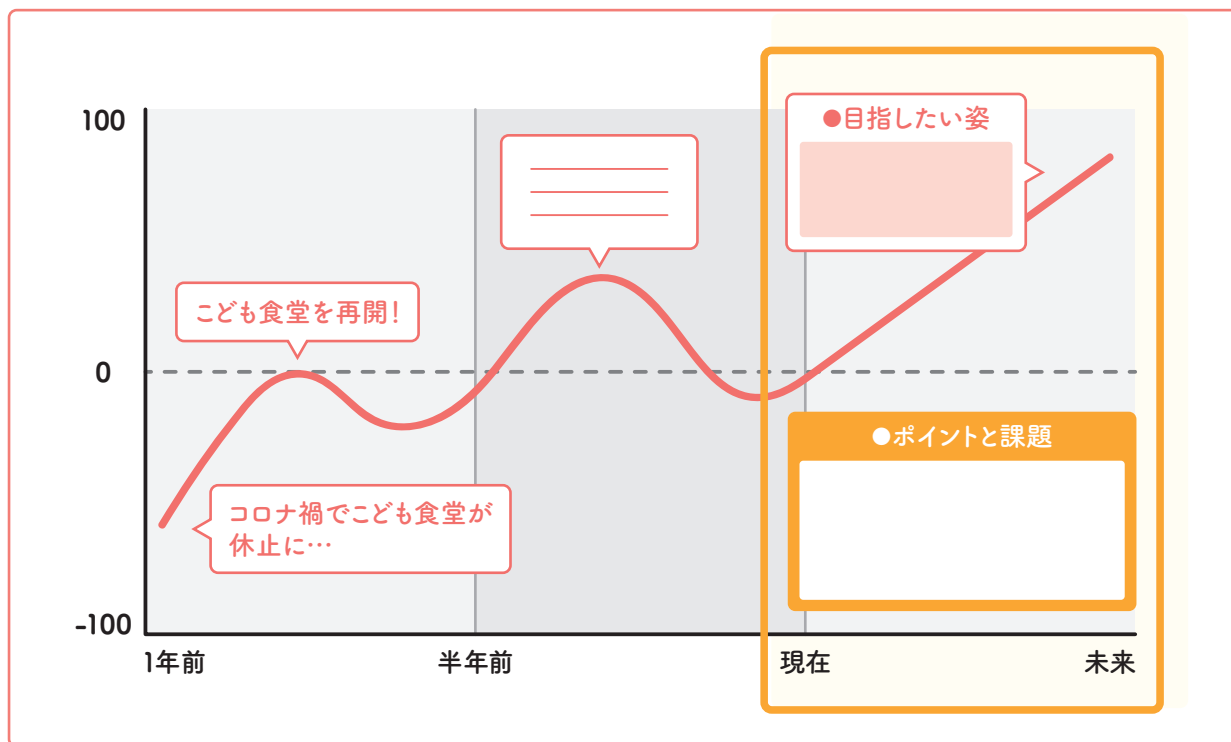
※この時点では「現在」までを記載する



最終報告会 実施内容

STEP3-②

改めてここまでのステップを振り返り、立ち現れてくる今後の目指したい姿を、グラフの続きに記載
その姿を実現する上でポイントになりそうな点や今後の課題を検討



04 一年間の試行実施の末、 見えてきたこと

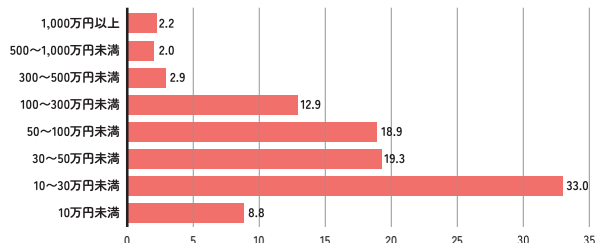
一年間の試行実施の末、見えてきたこと

困りごとアンケートの結果

第9回「こども食堂の現状&困りごと アンケート2024」より

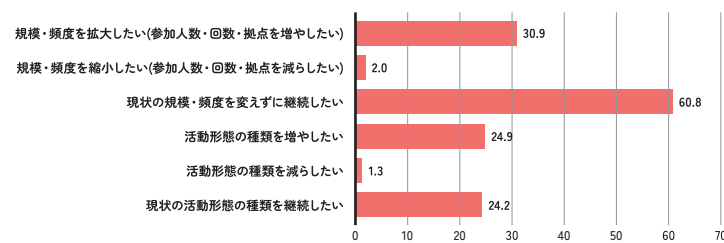
3 予算規模

回答数:1,224件 単位:%



11 今後の活動意向 (複数回答)

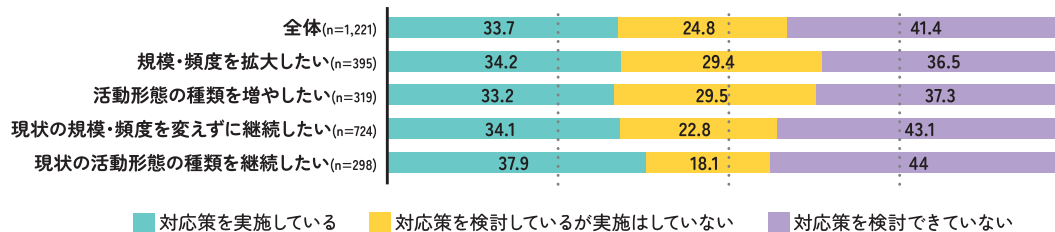
回答数:1,302件 単位:%



2024年度もこども食堂運営者向けの困りごとアンケートを実施し、会食形式での開催をしていると答えた割合が前年より10ポイント以上、上昇していた。また、今後の活動以降についても規模や頻度を変えないか拡大したいと答えた割合が約90%となった。その他の設問をみると物価高による影響が新たに出てきていることがわかるが、一方で、コロナ禍による開催形式や規模についての影響は薄まり、それぞれの運営者が納得する形を見出しているのではないかと解釈できる結果となった。

今後の対応策に関する意向別クロス集計結果をみると、現状の活動を継続していきたいと回答した人中で、困りごとへの対応策を検討できていないと回答した人の割合が多い傾向にある。したがって、本プロジェクトで実施したような、「本当にやりたいことは何なのか?」と立ち止まって問い直すことが今後さらに重要になってくるかもしれない。

■ 今後の意向別クロス



一年間の試行実施の末、見えてきたこと

それぞれのこども食堂の結論

各団体から、1年間を振り返って

●はちおうじ子ども食堂……………鈴木さん

今年このプロジェクト参加を通して、コロナが始まってから入ったスタッフ、食料配布しか経験のないスタッフとも、改めてこども食堂って何？を話し合う機会になりました。その結果、食を通して居場所の提供に時間を多く費やしていきたい→食料配布を止める結論に至りました。9月から本格的に会食形式1本で、月2回の活動を始めた結果、利用者の層が代わり、お子さん連れの家族の方が多くなってきました。学生中心の団体なので、世代交代をしながらも、想いを受け継ぎ、参加者、スタッフ共々の居場所となるような活動を続けていきたいです。

●子ども食堂にこにこ……………川鍋さん

コロナ禍の最中は食堂開催、食料配布も思うように活動ができず、活動を止めてしまおうかと思うことも度々ありました。今回のプロジェクトに参加させていただき、続けていて良かったと、少しづつ見通しを持って食堂運営が出来始めた事は、一重に皆さまのご支援の賜物と感じております。心からお礼を申し上げます。これからオイシックス様の食品提供がなくなるので、「おいしい」を理由に皆が来てくれるようがんばります！地域の食堂として根付いていきたいです。ありがとうございました。

●すずらん食堂……………小林さん

コロナ禍を経て、紆余曲折がありましたが、今は子育て世代 45世帯に食料配布をしています。登録制なので、各家庭の状況が見えている関係なので、このまま継続していきたいと考えていますが、このサポートの間に50世帯から45に、ゆくゆくは皆さんの状況をみながら少しづつ減らしていけたらと考えています。この1年間食料品をいただくことができ本当に助かりました。また、皆さまのお話を聞かせていただきとても勉強になりました。色々と考えてさせられた、その機会をいただいた1年にもなりました。食料配布を継続しながらも、食堂開催をしっかりやっていきたい、もっと充実させていきたいです。

●すまいるカフェ……………石黒さん

コロナ禍の期間もずっと会食形式でこども食堂を開催していました。毎回こどもたちが大勢集まり、賑やかなこどもたちの居場所になっていました。その一方、参加するスタッフに変化があって、雰囲気が変わり、今現在スタッフとのコミュニケーションに悩んでいます。このプロジェクトに参加させていただくことで、スタッフとの会話がとても大事だと改めてわかり、今後、何とか時間を作って努めていきたいと思えます。すまいるカフェはこどもたちの参加が殆どなので、食料配布を積極的にやっていたわけではないのですが、毎回楽しみにしてくれるこどもたちのためについ頑張ってしまうので、昨年11月からのオイシックス様のサポートでとても楽になりました。今回本当に参加させていただいて良かったです。ありがとうございました。

●さくら子ども食堂……………芦田さん

1年前は子ども食堂での食材配布をやめたいと思いつつも、参加者さんが必要と感じていたり楽しみにされているのが分かっていたのでなかなかやめることを思いきれていませんでした。食材配布からお土産という形を変えながらも、決断できずにいました。そんな時にこのプロジェクトに参加させていただくことができて私の思いに寄り添ってくださったむすびえの皆さまやフードバンク八王子の川久保さん。また、八王子の他の子ども食堂さんの思いも聞かせてもらってそれぞれの子ども食堂の形があっていいんだ。正解はないんだということが分かってなんだか心が軽くなりました。この1年オイシックス様のご寄付をいただける安心感のなかで今後の食堂の形について考える猶予をいただいたような気持ちがありました。私たちはやはり食堂として 食べに来てくれる人と向き合う事を大事にしたい。その月にご寄付いただけるものはお土産で持って帰ってもらい、お土産がない月もあるというスタンスでさせていただこうと思います。この1年はさくら子ども食堂にとってとても大切な時間となりました。この企画に携わってくださった皆様に心から感謝致します。ありがとうございました。

一年間の試行実施の末、見えてきたこと

フードバンク八王子さんコメント

2023年は、コロナ禍が少し落ち着きはじめ、こども食堂を再開するところが増えてきた一方で、ずっと続けてきた食料配布をどうしよう…と悩んでいるこども食堂が多い年でした。ですからこのご提案はまさに私が望んでいたものでした。

オイシックス様からの食料提供にとっても助けられたことはもちろんですが、自分たちの活動をしっかりと見つめ直すきっかけをいただきました。報告会での対話、ワークを重ねるたびに、それぞれの食堂が一步步、自分たちの本来目指していたもの、これからやりたいことが明確にしていけることができました。それは参加している代表の方を通して皆で話すきっかけも作ってくれて、それぞれが自分たちなりの答えを出していけることができました。

この取り組みの最中に食料配布を辞めることにし、オイシックス様からの食品提供も途中で辞退した食堂、食堂へ参加した方にお土産という形での配布にした食堂、継続を決断した食堂、それぞれがこの1年を通して今後の活動を選択していきました。

オイシックス様、むすびえ様との関わりの中で、こども食堂にとっても、フードバンク八王子にとっても、気づいたもの、得たものが多い充実した1年間を過ごさせていただきました。ご協力に心から感謝申し上げます。

We Support Familyさんコメント

本プロジェクトでは月1回の食品提供という形で参加させていただきました。プロジェクトの中では、パントリー開催にかかる労力が大きい一方、開催の目的を深く考える余裕がないというお話が多く聞かれました。食品を安定的にご提供することで、子ども食堂の皆様が「未来を考える時間」を確保することができたようで良かったと思います。プロジェクトでの議論や交流を通じ、お互いの活動の原点を確認できたと感じています。ありがとうございました。